東の実

東の実の種の葉の西洋の洋の諸国の薬の品の種の実の種の葉の西洋の洋の諸国の薬の品の種の実の種の葉の西洋の洋の諸国の薬の品の種

天より降る豆の辨

おゝそ非常の物の天より降る事は昔も今も稀に有る事なれ〳〵其物に就て考られば決して怪むに足らざれども流俗の習ひ諛を好む者は嘉瑞と云ひ罵り痴呆なる者は災異と〳〵恐怖し種々の妄説を唱ふる事あり〳〵也物學び人は苟且の事なれども心を用ひ物を格し理を窮めて惑を弁へしもべくん○今茲慶應元乙丑年閏五月下旬より六月の初まで天より豆の如き物を降らし事数十度あり或時は風雨に随て降り或時は晴天風雲無く〳〵此物のみ降る事あり始めは其物詳ならず或は菩提樹の実なりと云ひ或はギンマメの根に生ずる実なりと云諸説紛々たれども其実を精く検するに樟樹の属なる事疑ひ無し尚其證拠を得んと欲せしに偶東叡山多宝塔の邊に於てヤクスの大樹あり〳〵夥多の実を結べるを見る其樹下に落ちる者を見るに所々に降る者と少しも異なる事無し是に於て疑念氷解せり樹は樟の類なり〳〵處々自生の者少なく〳〵蓋し其実将に熟せんとするに方りて颶飄の爲に巻上げられ所々に降ちる者なるべし其後晴天に降る者ふ至て稀なる事狀頗る疑ふ可し〳〵恐くは狡猾の徒の所爲なるべし其樹既に知られて上に実の落る事何ぞ怪むに足らん依て其圖を刻〳〵同社に須つ○附唐土にも樹実の降る事あり其物詳ならず〳〵云ひ傳へ是に依て月中の桂実なりんと綱目に見えたり其月桂は即ち天竺桂なり又西洋の記録を按ずるに椽実。白屈菜の実等の降る例少なく〳〵又今より六十二年前イスパニヤ國レオンと云地にて豆の如きもの一度に千二百斤程降る事あり是を食するに頗る美味なりと云窮理家の説に是はセンダイハギの類の実なりとぞ

ヤマクス 一名イヌクスヌ アヌクスとも云

蘭名 アメリカーンセ ラウリール

東陽齋主人記